

令和元年7月12日(金)

「音楽祭」あいさつ

津山商業高等学校 校長 石下 義久

みなさんおはようございます。

まず、はじめに音楽祭に向けて、文化委員会、生徒会の皆さんをはじめ一人ひとりが役割をしっかりとこなし、準備したことによってこの行事が開催できますことを、心より感謝します。また、みなさんの練習での一生懸命さやひたむきな心にも、校長として感動したことをこの場を借りてお伝えしたいと思えます。

私が大切にしていることは「どんな大人になるか」です。私は、人間として当たり前のことですが「人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことができる人」になれたらいいなあと考えています。そして、ここにいる生徒も私を含めた教職員も「自分の幸せ」はもちろん「周りの人を幸せ」にできる人間に成長できたら素晴らしいと思います。そのためには周りの人間を感じることにあります。それが「人を幸せにする」第一歩でもあります。商業を学ぶとは「人を幸せにする仕組みを学ぶ」ことです。商業高校の存在意義の一つはそこにあるのかもしれませんが。そして、音楽祭などのこういった行事には、素敵な「大人になる」ための「仕掛け」がたくさん詰まっています。

音楽祭は、自彊祭と並んでクラスや学年、学校が一つとなることができる津商の伝統行事であり、アイデア力・チームワーク力・公共心などの育成を図ることを目的としています。さらに、協力することの大切さや思いやりの心、忍耐力、協働して何かを創り上げる力を学べる素晴らしい行事です。この行事に向けて、生徒も先生方も準備から大変な苦勞をしてここまでたどり着いたことをみなさんは知っておく必要があります。

特に合唱は、自分一人ではできません。まず、仲間を感じることから始まります。お互いに歌声を合わせようとする気持ちも大切です。そして、気持ちを一つにしなければ、感動的な合唱はできません。我々教職員も含め、津商の「仲間」をこの音楽祭で感じてください。合唱の持つ力を信じてください。とにかく、「みんなで、そして大きな声で歌う」ことが楽しいと感じてください。それが、クラスの文化になり、学年の文化になり、津商の文化になります。

さあ！音楽祭です。練習の中にこそ、個人として、集団としての成長があったはずで。ステージには自信と誇りをもってエレガントに、そして堂々と立ちましょう。そのステージの上からはきっと、今まで見えなかった、もっと遠くの充実感に彩られた素晴らしい未来が見えると思えます。

この「ベルフォーレ」という美しい森をキャンパスに、仲間とともに大きな歌声を描きましょう。

そして、届けましょう。我々の思いを 大切な人へ 心はつながっています！

1年 「ひまわりの約束」	君のためにできることがきっとあるはず
2年 「小さな恋の歌」	あなたにとって大事な人ほどすぐそばにいます
3年 「ありがとう」	君の笑顔に

We are Tsusho !!